

## よくある質問

Q. 入省するにはどのような知識・能力が必要ですか。

統計や法律などの専門知識がなくても大丈夫でしょうか。

A. 専門的な知識は大いに役立ちますが、入省後に身につける職員も大勢います。

入省後は統計のみならず、法律や経済の知識やコミュニケーション能力などを含めたより実践的で幅広い知識・能力が必要となるため、多くの職員は入省後に業務経験を積みながら少しずつ身につけていくことになります。統計の知識やデータ処理のスキルなど既持っている知識や能力があれば大いに役に立ちますが、それよりも理系的なセンスを活かして専門性を深めていく探究心や、未知の分野にも積極的に挑戦する好奇心・向上心を持っていることが重要です。入省後、研鑽をサポートする研修も豊富に用意されています。

Q. 採用されるとどのような部署に配属されるのでしょうか。

勤務地はどこになりますか。

A. 統計行政に関する部署を中心に様々な行政分野を経験できます。

入省後は総務省内の統計行政に関する部局を中心に配属され、本人の興味・関心や適性に応じて、総務省内の他部局への配属や、内閣官房、内閣府、厚生労働省などの他府省への出向を経験することもあります。また、和歌山県にある統計データ活用センター、国際機関や大学に出向することもあり、幅広いキャリアパスを描けることも魅力の一つです。勤務地は配属先にもよりますが、新宿区若松町にある総務省第2庁舎や千代田区霞が関にある合同庁舎が主となります。



Q. 採用後はどのようにキャリアアップしていくのですか。

A. 2年に一度程度、別の部署に異動しながら多様な経験を積んでいきます。

統計行政の仕事には、標本設計、データ分析、情報システムの運用管理といった技術的な仕事のほか、関係府省・地方公共団体や民間企業との調整、予算要求や執行、関係法令の改正、国際対応といった仕事も数多くあります。行政官としてこうした業務を実地で経験しながら専門性を深めていきます。多くの場合、2年に一度程度のスパンで別の部署に異動します。専門性に磨きをかけるとともに、特定の分野にとどまらない多様な経験を積みながら、徐々に責任の重い仕事を任されることとなります。

Q. どのような試験区分から採用していますか。

A. 理工系はもちろん、農学系や人間科学区分からもチャレンジしていただけます。

現職の職員は、理工系の試験区分(工学、数理学・物理・地球科学、化学・生物・薬学)からの採用者が多くなっています。しかし、例えば農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境、人間科学などの試験区分の合格者も、統計行政を中心に活躍いただけます。また、総務省では出身大学(大学院)や学部(研究科)、試験の順位に関係なく、人物本位の採用を行っています。

Q. 職場を見学することはできますか。

A. 是非総務省のインターンシップに参加してください。

総務省のインターンシップに参加していただくと、実際の職場の雰囲気を感じながら業務について知ることができます。過去に統計局に配属になったインターンシップ生には、国勢調査や労働力調査などの調査を行う部署や国際業務の担当部署など、いずれも最前線の現場で分析業務など様々な課題に取り組んでいただきました。インターンシップの詳細については、総務省のホームページでお知らせします。例年の募集時期は4月下旬～5月上旬(大学の推薦により応募)、実施時期は7月～9月となっています。

※インターンシップは学生の皆さんの職業意識を高めるとともに、公務への理解を深めていただくことを目的として実施するものであり、参加の有無が採用選考のプロセスに影響するものではありません。

Q. 休暇制度や仕事と子育て・介護等との両立支援制度にはどのようなものがありますか？

A. ライフステージの変化に対応した支援制度が整っています。

国家公務員は年あたり20日の年次休暇が付与され、連続3日間の夏季休暇が取得できます。また、結婚や出産、育児、介護といったライフステージの変化や、自己啓発やボランティアなどの自己実現に対応した特別休暇・休業制度が設けられています。例えば出産・育児の場合、産前・産後はもちろん、子供の保育や看護のための休暇が取得できるほか、短時間勤務や育児休業(育休)などの制度を利用できます。



Q. 国際的な仕事をする機会がありますか？

A. 国際的な舞台にも活躍の場があります。

人事院の制度を利用して海外の大学院で学位を取得した職員や、ニューヨークにある国際連合の統計担当部局に派遣された職員もいます。また、国際会議への参加など活躍の機会も多く用意されています。

Q. 総務省の業務についてもっと知る機会がありますか？

A. 是非業務説明会に参加してください。

総務省では毎年積極的に業務説明会を実施しています。現役の職員から直接話を聞くことのできる機会ですので、関心のある方は是非参加してみてください。詳しい情報については、以下のホームページに掲載します。

<https://www.stat.go.jp/info/saiyo/sougou.html>

